

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 慢性疼痛患者のデータベースの構築分科会
代表 折田 純久 千葉大学フロンティア医工学センター 教授
メンバー 新井 健一 愛知医科大学疼痛緩和外科 准教授
山田 恵子 順天堂大学大学院医学研究科疼痛制御学 准教授
青野 修一 玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科 准教授
稲毛 一秀 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 助教
顧問 山口 重樹 獨協医科大学医学部麻酔科学講座 教授
松平 浩 東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター
運動器疼痛メディカルリサーチ&マネージメント講座 特任教授

研究要旨

本研究では、慢性疼痛患者の登録システム（慢性疼痛患者レジストリ）の構築及び管理運営を行った。慢性疼痛患者レジストリ分科会において登録内容・システムの改変に向けた検討を行い、痛みセンター共通問診システムの連携機能について登録しやすいようにシステム改変を行った。また、痛みセンター共通問診システムについてクラウドベースでより管理しやすいシステムへ改変を行い、実証テストを行った。

A. 研究目的

慢性疼痛患者に対する集学的医療体制を多施設で構築していくためには、多種多様な慢性疼痛患者の情報を共通のフォーマットで収集するシステムが必要であり、これまでに研究班で、タブレットを用いて来院時に問診を行う痛みセンター共通問診システムを開発しデータベース化を進めてきた。また、これまで得られたデータを元に、慢性疼痛患者の登録システム（慢性疼痛患者レジストリ）の登録条件を選定し、慢性疼痛患者レジストリシステムの運用を開始している。同時に、登録のための動画コンテンツを作成し、各施設からのフィードバックも得られてきている。

本研究では、慢性疼痛患者レジストリの運営管理及び改変に向けた検討を行う。特に、痛みセンター共通問診システムとレジストリシステムとの連携について機能改修を行う。また、これまで登録された患者情報について検討する。

B. 研究方法

令和4年度の活動として次の6つの項目を進める。

① 昨年度までのレジストリのバージョンを

「レジストリ Vol.1」として、レジストリの内容を整理発展させるために、現在までに収集されたレジストリ Vol.1 のデータ分析を行う。

- ② レジストリ Vol.1 の構造上の問題点や課題を抽出し、修正後のバージョンを「レジストリ Vol.2」として登録を推進する。
- ③ レジストリ Vol.2 に、レジストリ Vol.1 で導入された ICD-11 慢性疼痛分類に、IASP の ICD-11 タスクフォース内でも現在検討が進められている「医療介入の国際分類 (International Classification of Health Interventions: ICHI)」のうち、慢性疼痛に関連する医療介入分類の追加が可能かどうかの検討を行う。
- ④ レジストリ Vol.2 と痛みセンター共通問診システムを連動させるにあたって、従来の痛みセンター共通問診システム (iPad 問診システム) の改良(質問票の再検討等)を行う。
- ⑤ 今年度中に完成予定のレジストリ Vol.2 の普及啓発活動に向けて、(i) レジストリ

入力マニュアルの作成、(ii)掲載する模擬症例の検討、(iii)レジストリに入力する ICD-11 慢性疼痛分類のコーディング研修会開催の準備を行う。

- ⑥ 今年度中に完成予定のレジストリ Vol. 2 の普及啓発活動に向けて、第 52 回日本慢性疼痛学会(2023/3/10-11、福岡市)にて展示ブースを設営し広報活動を行う。

C. 研究結果

上記①の解析結果について、IASP World Congress (2022/9/19-23、トロント)の Topical Workshop にて本分科会メンバーの新井健一氏が口演発表を行った。(本分科会メンバーで共同演者の山田恵子氏も現地参加し関連研究に関する情報収集を行った。)

月に 1 回程度の web 会議を開催し、上記①～⑥の項目を進めている。特に今年度は本分科会のメンバーが刷新されたため、①～⑥を滞りなく遂行するためにレジストリの作成目的の班内コンセンサスや登録対象を改めて確認のうえで研究活動を実施している。

D. 考察

本研究では、これまでの痛みセンター共通問診システムの情報を元に、慢性疼痛レジストリの構築及び運用を行った。今後は、慢性疼痛患者レジストリの登録数が増えることにより、介入方法や疼痛分類 (ICD-11) の情報を含めて解析を行うことが可能となり、集学的痛み診療モデルの構築やガイドラインの作成に役立つレジストリシステムを目指して運営管理を進めていく。そのためにも、分科会において、各施設が登録しやすいようなシステムの改修及び、取得項目の再検討を進める必要がある。言葉の定義が共通認識の上で登録可能となるよう、ICD-11 や、器質的要因・精神心理的要因ツール (K-S 要因ツール) のマニュアル作成を広報分科会と協力しながら進め、研修機会を設ける取り組みを進めていく必要がある。

また、取得した患者レジストリ情報を広く分譲し、レジストリ情報を活用した研究が進められることが望まれる。そのためにも研究班の内外への周知・広報活動を進めることが課題である。

E. 結論

本研究では、これまでの痛みセンター連絡協議会所属機関の問診データの情報を元に慢性疼痛患者レジストリの開発及び運営管理を行った。これまでの登録情報についてまとめレジストリ項目の再検討を行った。また、痛みセンター共通問診システムをクラウドベースへと改修を行い、レジストリとの連携が行いやすいようにシステム改変を行った。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) Arai YC, Yamada K, Aono S, Orita S, Inage K. The survey of implementing the ICD-11 chronic pain classification in multidisciplinary pain centers of Japan. 2022 IASP World Congress on Pain. 2022. 9.19-23. Toronto, Canada.
- 2) Keiko Yamada, Satoko Chiba, Kenta Wakaizumi, Takahiro Tabuchi, Masako Iseki Tobacco use for pain relief: A web-based cross-sectional study in Japan. 2022 IASP World Congress on Pain. 2022. 9.19-23. Toronto, Canada.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし